

# イタリア短期交換留学の報告

林 文明・藤田英樹・高瀬利恵子・古川竜治・清水勝昭

## 1. はじめに

本学では、2000年にイタリア国立フェラーリ工業専門学校(I. P. S. I. A. “A. Ferrari”)と提携し学生や先生の交流をはじめ、多彩な活動を続けている。そのひとつとして、学生の交換留学がある。本学からの学生派遣は2003年春休み期間中に第1回を実施して以来、毎年、本学の学生を派遣している。本稿では、2008年3月に行われた第6回(2007年度)イタリア短期留学派遣について報告する。

## 2. 経緯

イタリア国立フェラーリ工業専門学校(以下フェラーリ校という)とは2002年4月に交換留学に関する協定が結ばれ、2006年4月には協定を継続するための手続きが本学で交わされた。

短期交換留学の担当部署は、前年までは学生部国際交流課(事務職員3名、うち1名は兼務)であったが、2007年度は学長直轄の国際交流室(教員5名、兼務)が担当することになった。2007年4月6日、本学の入学式参加のため来日したフェラーリ校ニコ校長と担当者が会談を行い、かねてから問題になっていた短期留学派遣の時期について協議したところ、3月以外の受け入れは厳しいとの回答であった。その理由は、7、8月はイタリア側が長期夏季休暇で研修の事業所との調整が不可能であること、他国の協定校の短期留学がすでに予定されているからとのことだった。そのため、今回も例年通り3月に実施することとなった。ただし、この時期は本学にとっては年度末の繁忙期で、また、二級整備士教育が大詰めの時期であることから、専任教職員の引率者を同行させることができない。引率は、第1回からお願いしている本学非常勤教育担当の野田毅氏に、イタリア語の通訳補助も兼ねて依頼することになった。

参加学生の募集については、今年度初めて、留学適性を見るため希望者に対して面接を課すことにした。9月末に1年生クラス担任からクラスゼミで短期留学の募集を案内してもらうよう依頼した。同時に、各教室・廊下・学生課の窓口・担当教員の準備室入口などにポスターを貼りPRをした。募集期間の10月1日～26日まで随時5号館2階5R23準備室で林、藤田が問い合わせに対応した。その結果、参加希望者が8名でたので10月30日、31日に林、藤田で面接を実施した。希望研修先は8名ともフェラーリ本社工場であった。しかし、研修先の受け入れ人数は、フェラー

り本社工場（フェラーリの製造）2名，カロツェリア・ザナシー（フェラーリ専門の車体整備工場）1名，トニー・オート（フェラーリ専門の整備工場）2名の，最大で5名であったため，11月5日に国際交流室会議を開催し，面接結果をもとに短期留学参加者5名を選抜した。選抜された5名の中には，短期留学生派遣史上初めて女子学生（1名）と韓国人留学生（1名）が含まれる結果となった。対象学生に第1回説明会を12月6日に行い，短期留学の意思確認及び日程，費用（旅費42万円）について説明した。20日に第2回説明会を行い，申込金の徴収（5万円）及び海外保険の案内をした。年明けの1月17日に第3回説明会を行い，研修，観光，注意等の説明及びイタリア語レッスンの通知をした。また，31日の教授会で研修行程及び研修先の決定を報告した。2月12日に第4回説明会を行い，しおりの配布，プロフィール表の記入，留学準備等の説明をした。短期留学は，長期イタリアに滞在するので語学力が要求される。本学は正規授業でイタリア語を開講しているのので，これを履修している学生が好ましいが，今の履修システムでは人数の制限により希望者がすべて受講できるとは限らない。そこで，外部から非常勤の講師（イタリア語通訳者，杉山氏）を招聘し2月12日～20日まで語学レッスンを全12コマ行った。その様子を写真1に示す。20日に第5回説明会を行い，最終確認，チケットの配布，保険証及びパスポートのコピー，引率者野田氏との交流をした。22日に学生5名と引率野田氏で短期留学に出発した。その様子を写真2に示す。



写真1



写真2

### 3. 研 修 行 程

イタリア短期留学は，表1に示すように2008年2月22日（金）～3月22日（土）の28泊30日に決定し，行程が進められた。例年，出発は中部国際空港から航空機でイタリアのミラノに入って1日観光し，翌日，フェラーリ校の近くにあるモデナまで列車で移動していたが，今回は実務的研修を充実させる目的から，初日に目的地のマラネロに近いボローニャ空港に到着し，そのままホームステイ先のセラマツォーニ（Serramazzoni）へ入るようにした。セラマツォーニは，研修場所のマラネロから少し離れているので，レンタカーで20～30分くらいかかったようである。

表1 行程表

	月 日	都市名	交通機関	時間	スケジュール
1	2月22日(金)	セントレア発 パリ 着 パリ 発 ボローニャ着 ボローニャ発 マラネロ 着	エールフランス AF295便 エールフランス AF2128便 タクシー レンタカー	10:00 14:40 16:05 17:45	空路, 中部国際空港からエールフランスでパリへ。 空路, パリ・シャルルドゴール空港からイタリア, ボローニャへ。 到着後, タクシーでマラネロへ。 マラネロでレンタカーを借り, ホームステイ先のセ ラマツォーニへ。 【ホームステイ】
2 ~ 25	2月23日(土) ~ 3月17日(月)	セラマツォーニ マラネロ	レンタカー		セラマツォーニ~マラネロ~セラマツォーニをレ ンタカーで移動。マラネロでフェラーリ本社工場, カロツェリア・ザナシー, トニー・オートでそれ ぞれ研修 【ホームステイ】
26	3月18日(火)	ボローニャ発 ローマ 着	列車	約 2.5H	列車でボローニャからローマへ。 到着後, ホテルへ。 【ローマ泊】
27	3月19日(水)	ローマ	バス		終日, 定期観光バスでローマ一日観光へ。【ローマ泊】
28	3月20日(木)	ローマ			終日, フリータイム 【ローマ泊】
29	3月21日(金)	ローマ 発 パリ 着 パリ 発	エールフランス AF1505便 エールフランス	13:00 15:10 16:50	ホテルで朝食後, タクシーで空港へ。 空路, エールフランスでパリを経由し, 帰国の途へ。
30	3月22日(土)	セントレア着	AF294便	12:50	中部国際空港到着。

ホームステイ先の選択は例年通りイタリア校にまかせてある。今回は、短期留学生5名、内1名が女性ということもあり少し大きな家を選んでくれたようだ。ホームステイ先は、フェラーリ校からの第2回短期留学生でもある Franchi Rossella 君の自宅であった。その様子を写真3に示す。



写真3



写真4

ホームステイ先から各研修先へはレンタカーで引率の野田氏の運転により送迎した。その様子を写真4に示す。研修は3週間行われた。

3つの実務研修先であるフェラーリ本社工場の様子を写真5に、カロツェリア・ザナシーの



様子を写真6に、トニー・オートの様子を写真7に示す。また、見学として、フェラーリ博物館、二輪車メーカーのドゥカティ社工場及び博物館、自動車部品メーカー（排気マニホールド製造）へ訪れた。



写真5

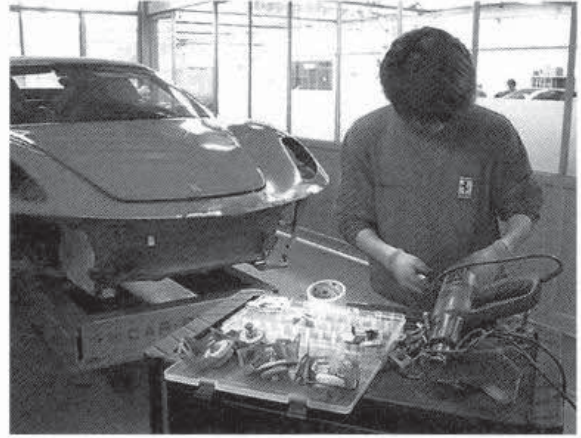


写真6



写真7



写真8

自動車関係以外の研修も充実したものであった。イタリアの文化にも触れてもらおうと、休日を利用して2月24日にヴェローナ（写真8）、3月2日にヴェネツィア（写真9）、9日にミラノ（写真10）、16日にフィレンツェ（写真11）へ訪問し、悠久の歴史を堪能した。

3月17日にこの短期留学の修了式がフェラーリ校で行われ、ニコ校長直々に修了証書が渡された。その様子を写真12に示す。18日にマラネロをあとにして、ボローニャ駅より列車でローマに向かった。翌19、20日にローマ観光。

その様子を写真13に示す。



写真9



写真10



写真11



写真12



写真13

3月22日（土）に帰国予定であったが、フランスでの乗り継ぎの際、現地航空会社の不手際により、急遽パリに1日滞在することとなった。その夜、予期せぬパリ観光が実現したわけである。そのため、帰着日が1日遅れたが、うれしいハプニングであった。

#### 4. 短期留学参加学生からのコメント

41生 佐藤孝昭

研修先：フェラーリ本社工場（最終組立工場）

私はフェラーリ本社工場のエンジン組み付けラインで研修しました。目の前で次から次へとエンジンができていくのを目の当たりにしました。シリンダブロックにシリンダを入れるところから始まり、組み終わると1台のエンジンが完成します。作業はラインでしたが、総てのライン作業を最初から最後まで経験させてもらいました。最初のラインでは、「エンジン」というより「穴の開いた鉄」という状態で、ラインが進むにつれて「穴の開いた鉄」から「エンジン」に変化していきました。その変化を見ていると「このエンジンがいつか車として使われるのか」と思い、毎日の組み付け作業が楽しくて仕方ありませんでした。この経験は、本学の短期留学でないと実



現できないことだと思えます。本学だから学べること、本学じゃないと学べないこと、今だからできること、今じゃないとできないこと、さまざまな「こと」があるのを知りました。これからも何事にも積極的に挑戦していきたいと思えます。

41生 大庭圭太郎

研修先：カロツェリア・ザナシー（フェラーリ専門の車体整備工場）

短期留学は1ヶ月という短い期間でしたが、この体験は私の人生で特別なものになりました。はじめは、言葉の壁や人間性の違いに戸惑うこともありましたが、イタリア人の心の温かさにも助けられ、有意義に過ごすことができました。日本だけではなく、イタリアにも数多くの友人を作ることができ、私の第二の故郷もでき、この短期留学に参加したことは、本当に良かったと思えます。

筆者の要請により、一部記述を削除しました。  
2016.12.26

41生 平川政和

研修先：トニーオート（フェラーリ専門の整備工場）

今回、イタリアで1ヶ月間短期留学をするというとてもよい経験をさせていただきました。まず、海外ではよくあるトラブルで、飛行機から降りて荷物が来なかったり、デジカメの液晶が割れてしまっていたり、乗り継ぎ空港で飛行機が待っていないくて次の日に乗り継ぐということがありました。次回、海外に観光に行くときや仕事の出張で行く場合などでも気持ちに余裕をもって行くことができそうです。私自身、海外で働くことは夢の一つだったので、この短期留学はとても参考になりました。日本が好きだった自分に改めて気付いたことや、整備士としての自分の能力、自分の語学に対する認識の甘さと、自分の英語に関する知識の低さを痛感しました。また、研修先に、迷惑をお掛けしたと思えますし、ホームステイでもイタリア語でうまく話せなかったりと、もっと事前準備をしていけば良かったと悔やまれました。これを機に、語学の資格やキャリアアップの為の資格を受けようと思えます。今の生活は充実しています。

41生 高 鳳聲

研修先：トニーオート（フェラーリ専門の整備工場）

中日本自動車短期大学ならではの特典であるイタリア短期留学に参加することになりました。車が好きな人なら一度は乗ってみたいイタリアが誇る世界唯一無二のフェラーリを製造しているマラネロで、研修を行いました。研修場所は、トニーオートという数十年前のクラシックスーパーカーや最新型のフェラーリまで整備している博物館のような、フェラーリ専門の整備工場でした。近くには、フィオラノサーキット（フェラーリ社のテストコース）があり、生のF1サウンドが聞こえる場所でした。また、車のことなら何でも整備できる整備士たちとの出会いがありました。今でも、私があのか地を訪ねたことが信じられないくらいです。4週間の研修中、ホームステイをはじめとして、ローマ、ヴェネチア、ミラノ、フィレンツェの都市も回って異文化体験することが出来ました。私の人生にとって、忘れられない貴重な体験になりました。

## 5. ま と め

この短期留学は、当初の予定通り順調に実施され、全員が健康に無事帰国できたのはもちろんのこと、すべての学生が本学ならではの貴重な体験を満足してくれた。精緻なデータに基づくものではないが、過去の参加者に比べ一層満足度が高かったようである。これは、今後、彼らの人生にとっても、本学の留学派遣事業にとっても有意義であった。

特に、今年度は従来の観光日程を圧縮し、実務研修の日数を増やしたこと、そして、少しでも研修効果が上がるよう、事前のイタリア語レッスンを充実させたこと、これらのことは従来にも増して、参加者の満足度が高くなった要因であると考えられる。

また、今年度初めて、参加者の募集にあたり面接を実施し、選抜をおこなった。そのせいか、参加学生諸君の意識が極めて高かったことも特筆すべきだろう。史上初めて女子学生を派遣できたこと、韓国人留学生を派遣できたことも記録に値することだ。

今後の課題として、本学の受け入れるフェラーリ校の短期留学生との待遇上の均衡を実現するために、両校で突っ込んだ話し合いを持ち、合意が得られれば、参加学生の金銭的負担を増やすことなく内容をより充実させる可能性があることを指摘しておきたい。

最後に、この短期交流留学の実施にあたり多大な協力を頂いた関係諸氏、日本語レッスン講師の杉山氏、引率の野田氏、イタリア側との調整役の学園本部の蜂須賀氏に深く感謝の意を表したい。

## 6. 参 考 文 献

- 1) 吉田 立：『イタリア短期交換留学の報告』「中日本自動車短期大学論叢 第34号」(2003), p.115-119
- 2) 中川 実：『2005年度イタリア短期交換留学の報告』「中日本自動車短期大学論叢 第37号」(2006), p.75-81